

# ひとり暮らし高齢者の社会的孤立 : 鹿児島県の過疎地と離島の違いに焦点を当てて

著者	高橋 信行
雑誌名	地域総合研究
巻	41
号	1
ページ	41-53
発行年	2013-10-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1654/00000581/">http://id.nii.ac.jp/1654/00000581/</a>

# ひとり暮らし高齢者の社会的孤立—鹿児島県の過疎地と離島の違いに焦点を当てて

高橋 信行\*

This study aimed to conduct an analysis based on a survey performed in 4 municipalities which investigated social isolation among elderly persons living alone. This study was conducted as collaborative research between the Minami-Nippon Shimbun and International University of Kagoshima in September 2011, and obtained sample data from 1,000 cases with the support of local welfare staff members.

Particularly, I focus on the difference between depopulated areas and remote islands about their ideas.

## はじめに

本稿は、2011年に鹿児島県4自治体を対象にして行ったひとり暮らし高齢者の社会的孤立を中心としたアンケート調査（南日本新聞社との合同調査）の内容を基礎にしながら、その後行った住民の地域評価調査の結果を含めて、南大隅町と喜界町という2自治体に焦点をあてながら、考察を加えている。

南大隅町と喜界町は、地域としてさまざまな共通性を持ちながら、社会的孤立調査においては、いくつかの点で異なった結果をみせていた。ここでは、後に行った民生委員等の住民調査の結果も踏まえながら、その背景等について考察を加える。

## 1. ひとり暮らし高齢者4自治体調査について

この調査は南日本新聞社と鹿児島国際大学と合同で行ったもので、高齢者の社会的孤立の問題を軸に、孤立しやすいと考えられるひとり暮らし高齢者、約1000名に対して、アンケート調査（2011年実施）を行ったものである。対象地域は、鹿児島市、南さつま市、南大隅町、喜界町の4自治体である。

この調査の目的は、鹿児島県内でのひとり暮らし高齢者の社会的孤立の実態を知るとともに、都市部や高齢化の進んだ地域、過疎地を含む自治体などの実態を比較するためである。

調査では、社会的孤立のみならず、生活に関するかなり幅広い質問（健康、食生活、買い物、社会活動への参加、福祉サービスの利用、外出頻度、生活満足度、友人や頼れる人の数、経済状態など）を含んで

---

キーワード：社会的孤立、ひとり暮らし高齢者、過疎地、離島

---

\* 本学福祉社会学部・大学院福祉社会学研究科教授

いる。

調査対象地域のサンプル数は、鹿児島県内のうち、鹿児島市400名、南さつま市200名、南大隅町200名、喜界町200名である。配票は地域の民生委員協議会に依頼した。対象者の抽出は、できるだけ無作為抽出で行うように求めたが、実際に無作為抽出が行われたのは、喜界町だけであり、他の方法ではある程度民生委員にサンプルの選択はまかせられた。調査方法は、民生委員による留置法である。調査時期は、2011年9月から10月にかけてである。あらかじめ1000名のデータという形でサンプル数は決めていたが、サンプルがとれているのは995名である。調査地の選択は意図的であり、これらを合計しても鹿児島県の代表値とは必ずしも言えない。

この調査の内容については、2012年地域総合研究の1と2において筆者が報告したが、この中で特徴的であったのは、過疎地である南大隅町と奄美群島の1つである喜界町の調査結果であった。過疎化している点、多くの若者が地域を離れていく点、また人口規模など共通点も多かったが、他方でひとり暮らし高齢者の意識と生活には多くの違いが見られた。(高橋2012, 2013)

表1 各自治体の高齢者に関わる基礎データ

	鹿児島市	南さつま市	南大隅町	喜界町	鹿児島県	全国
人口	605,846	38,704	8,815	8,169		
高齢化率	21.2%	35.0%	43.3%	32.9%	26.5%	23.0%
高齢化率順位	43	11	1	19		
65歳以上単身世帯	10.5%	20.5%	24.2%	19.1%	14.1%	9.2%

(2010年国勢調査から)

## 2. 南大隅町と喜界町の特徴

はじめに南大隅町と喜界町の地理的な特徴を含め、沿革を簡単にふりかえろう。

### (1) 両町の沿革

南大隅町は、旧根占町と旧佐多町が2005年に合併してできた自治体であり、大隅半島の南部、九州最南端の佐多岬を有している。南東側は大隅海峡、西側は鹿児島湾（錦江湾）に面しており、三方を海に囲まれた半島の先端の町であり、西には薩摩半島の指宿市、南には種子島、屋久島等がある。面積は214平方キロメートルである<sup>1</sup>。

喜界町は奄美群島の1つであり、鹿児島から380キロメートル南、奄美大島から69キロメートルの東北端に位置する。総面積56.9平方キロメートルで、南南西から北東に長く14キロメートル、南北の最長7.6キロメートル、周囲48.6キロメートルである。集落は海岸線に沿って展開し各集落の背部は農耕地となり、東南から南北に走る百之台丘陵に連なっている。概して平坦な島であり、河川という河川はなく、島の大半は隆起サンゴ礁である<sup>2</sup>。

両町とも人口規模もほぼ同じ、そして農業を基盤産業にしている。

1 南大隅町ホームページ参照 <http://www.town.minamiosumi.lg.jp/>

2 喜界町ホームページ参照 <http://www.town.kikai.lg.jp/>

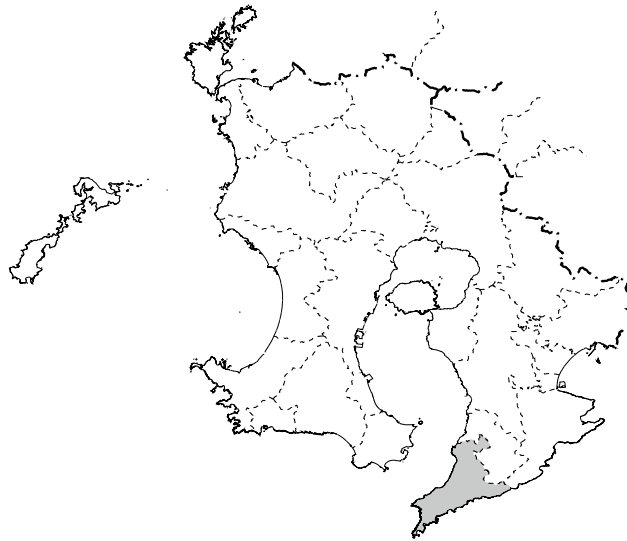


図1 南部島嶼部を除く鹿児島県内の南大隅町の位置

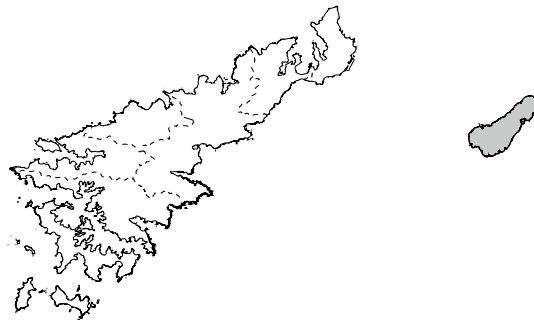


図2 喜界町の位置（左は奄美大島）

## （2）人口構成と高齢化率

南大隅町と喜界町の人口は（2010年），南大隅町8,815人に対して，喜界町8,169人である。650人ほど南大隅町の方が多く，大きくは変わらない。ただ表2からは15歳未満人口は喜界町に多く，南大隅町は高齢者の人口が多いことがわかる。高齢化率は，この時点で南大隅町43.3%に対して喜界町32.9%である<sup>3</sup>。高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯も南大隅町に多くなっている。またどちらの町も転出者の方が転入者よりも多いが，特に南大隅町はその傾向が強い。

表2 人口構成等に関わる比較（2010年）

市区町村	人口総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口	出生数	死亡数	転入者数	転出者数	世帯数	単身世帯数	高齢夫婦世帯数	高齢単身世帯数
南大隅町	8,815	871	4,123	3,821	44	171	229	369	4,005	1,340	841	964
喜界町	8,169	1,184	4,299	2,684	62	145	321	402	3,634	1,267	517	693

「統計でみる市区町村のすがた」2013 総務省 より作成<sup>4</sup>

## （3）産業構造

産業構造の点からみると，労働力人口はほぼかわらない。就業者数は喜界町がやや多い。高齢化率の違い

<sup>3</sup> 南大隅町の高齢化率は鹿児島県で最も高い。

<sup>4</sup> 統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/data/ssds/5b.htm>

いが影響しているのかもしれない。産業従事者では第1次産業従事者は南大隅町に多く、第2次、第3次産業は喜界町の方が多い。また南大隅町の特徴として、他の自治体からの通勤者、他の自治体への通勤者が多いことがあげられる。離島の特徴とも言えるだろうが、喜界町ではこうした人はほとんどいない。

表3 産業構造に関わる比較(2010)

	労働力人口	就業者数	完全失業者数	第1次産業就業者数	第2次産業就業者数	第3次産業就業者数	自町で従業している就業者数	他市区町村への通勤者数	従業地による就業者数	他市区町村からの通勤者数
南大隅町	3,878	3,591	287	1,185	530	1,876	2,879	711	3,521	641
喜界町	3,886	3,707	179	891	607	2,204	3,703	4	3,724	21

「統計でみる市区町村のすがた」2013 総務省ホームページより作成

### 3. ひとり暮らし高齢者の社会的孤立について—4自治体調査での南大隅町と喜界町の特徴—

#### (1) 経済状況

経済状況が社会的孤立に影響する点は、河合の研究(河合2009, 2010)により明らかになっているが、4自治体調査における結果からは、南大隅町と喜界町が他の自治体に比べ、所得水準がかなり低く、月収入が10万円未満とするものが、6割以上いることがわかる。

表4 地域と現在の収入のクロス表

			現在の収入			合計	住民所得
			10万円未満	10～15万円未満	15万円以上		県平均との比較
地域	鹿児島市	度数	101	93	184	378	2683000
		%	26.7%	24.6%	48.7%	100.0%	112.0%
	南さつま市	度数	85	41	59	185	2019000
		%	45.9%	22.2%	31.9%	100.0%	84.3%
	南大隅町	度数	118	33	23	174	1716000
		%	67.8%	19.0%	13.2%	100.0%	71.8%
	喜界町	度数	111	34	33	178	1899000
		%	62.4%	19.1%	18.5%	100.0%	79.3%
合計	度数	415	201	299	915		
	%	45.4%	22.0%	32.7%	100.0%		

※なお、22年度市町村民所得推計主要指標によれば、人口一人当たりの所得の県平均を100とした場合の割合を表の県平均との比較として示している。南大隅町と喜界町は全体的に見ても所得水準が低い町村と言える<sup>5</sup>。

#### (2) 社会的孤立関連項目

これよりは、社会的孤立に関係する調査結果を示す。はじめに、「別居している子どもとどの程度連絡をとっているか」についての調査結果であるが、その前に「身近に子供がいるか」の結果を見てみる。喜界町の場合、52.5%は「他の自治体にいる」に答えており、南大隅町では、58.8%が「他の自治体にいる」と答えている。鹿児島市の26.0%と比べると対照的で、子どもが同一市町村にいない者が多い。仕事を求めて他の市町村にいくが、喜界町は一島一町であるので、他の市町村にいるとは島を出ること、海を隔て

5 鹿児島県平成22年度 市町村民所得推計結果の概要

<http://www.pref.kagoshima.jp/ac09/tokei/bunya/keizai/syotoku/h22gaiyou.html>

た地域にいることをあらわしている。

表5 地域と一番近い別居の子ども

			一番近い別居の子ども					合計
			同一家屋	同一敷地内	近隣地域	同一市町村	その他の地域	
地域	鹿児島市	度数	7	11	113	114	86	331
		%	2.1%	3.3%	34.1%	34.4%	26.0%	100.0%
	南さつま市	度数	9	8	29	27	90	163
		%	5.5%	4.9%	17.8%	16.6%	55.2%	100.0%
	南大隅町	度数	7	9	29	23	97	165
		%	4.2%	5.5%	17.6%	13.9%	58.8%	100.0%
	喜界町	度数	7	5	33	30	83	158
		%	4.4%	3.2%	20.9%	19.0%	52.5%	100.0%
合計	度数	30	33	204	194	356	817	
	%	3.7%	4.0%	25.0%	23.7%	43.6%	100.0%	

こうした点を踏まえて以下の表をみると、南大隅町と喜界町に奇妙な対比が見られる。「ほとんど毎日連絡をとっている」に注目すると、南大隅町は37.6%と4自治体で最も低いが、喜界町は逆に51.4%と最も多くなっている。「連絡」には電話等も含まれるから島外にいても毎日連絡がとれるのだろうが、喜界町は子どもとの交流がよく行われているようだ。

表6 地域と別居家族との連絡

			別居家族との連絡					合計
			ほとんど毎日連絡をとっている	週1日以上は連絡をとっている	月に1～3回は連絡をとっている	年に1回から数回の連絡	ほとんど連絡しない（数年に1度などを含む）	
地域	鹿児島市	度数	143	126	76	20	5	370
		%	38.6%	34.1%	20.5%	5.4%	1.4%	100.0%
	南さつま市	度数	72	63	33	14	2	184
		%	39.1%	34.2%	17.9%	7.6%	1.1%	100.0%
	南大隅町	度数	68	43	51	15	4	181
		%	37.6%	23.8%	28.2%	8.3%	2.2%	100.0%
	喜界町	度数	94	38	39	11	1	183
		%	51.4%	20.8%	21.3%	6.0%	0.5%	100.0%
合計	度数	377	270	199	60	12	918	
	%	41.1%	29.4%	21.7%	6.5%	1.3%	100.0%	

ただこの結果は身近に子どもがいる場合も含まれるので、これを一番近い子どもが、他の市町村にいる者に限定してみたのが表7である。「ほとんど毎日連絡をとっている」の順位はそれほど変わらない。一番多いのが喜界町であり、一番少ないのが南大隅町である。

表7 地域と別居家族との連絡と一番近い別居の子どもが他自治体の者

			別居家族との連絡					合計
			ほとんど毎日連絡をとっている	週1日以上は連絡をとっている	月に1～3回は連絡をとっている	年に1回から数回	ほとんど連絡しない（数年に1度などを含む）	
地域	鹿児島市	度数	26	23	23	9	3	84
		%	31.0%	27.4%	27.4%	10.7%	3.6%	100.0%
	南さつま市	度数	26	32	23	7	0	88
		%	29.5%	36.4%	26.1%	8.0%	0.0%	100.0%
	南大隅町	度数	23	23	36	10	3	95
		%	24.2%	24.2%	37.9%	10.5%	3.2%	100.0%
	喜界町	度数	29	21	27	5	1	83
		%	34.9%	25.3%	32.5%	6.0%	1.2%	100.0%
合計	度数	104	99	109	31	7	350	
	%	29.7%	28.3%	31.1%	8.9%	2.0%	100.0%	

## ②近所づきあいの程度

近所づきあいを聞いた質問では、南大隅町と喜界町はともに、都市部の鹿児島市と比べると付き合いが深いようである。「自宅に行き来するつきあいの人がいる」は鹿児島市63.6%に比べ、南大隅町83.8%、喜界町84.2%である。

表8 地域と近所づきあいの程度

			近所づきあい				合計
			自宅に行き来するつきあいの人がいる	立ち話をする程度	挨拶をする程度	ほとんど付き合いはない	
地域	鹿児島市	度数	252	78	49	17	396
		%	63.6%	19.7%	12.4%	4.3%	100.0%
	南さつま市	度数	155	24	13	3	195
		%	79.5%	12.3%	6.7%	1.5%	100.0%
	南大隅町	度数	166	16	15	1	198
		%	83.8%	8.1%	7.6%	0.5%	100.0%
	喜界町	度数	165	20	8	3	196
		%	84.2%	10.2%	4.1%	1.5%	100.0%
合計	度数	738	138	85	24	985	
	%	74.9%	14.0%	8.6%	2.4%	100.0%	

## ③会話の程度

会話の程度も大きな差ではないが「毎日誰かと話している」では、喜界町が81.0%と最も多く、南大隅町も77.6%と多い方である。ただ「誰とも話さない日が週2～3日ある」では、南大隅町が13.0%と多くなっている。

表9 地域と会話の程度

			家族を含め毎日誰かと話しているか					合計
			毎日誰かと話している	誰とも話さない日が週1日くらいある	誰とも話さない日が週2～3日ある	誰とも話さない日が週4～5日ある	ほとんど誰とも話はない(週6日以上)	
地域	鹿児島市	度数	276	67	36	5	6	390
		%	70.8%	17.2%	9.2%	1.3%	1.5%	100.0%
	南さつま市	度数	149	25	16	2	0	192
		%	77.6%	13.0%	8.3%	1.0%	0.0%	100.0%
	南大隅町	度数	149	16	25	2	0	192
		%	77.6%	8.3%	13.0%	1.0%	0.0%	100.0%
	喜界町	度数	158	17	14	4	2	195
		%	81.0%	8.7%	7.2%	2.1%	1.0%	100.0%
合計	度数	732	125	91	13	8	969	
	%	75.5%	12.9%	9.4%	1.3%	0.8%	100.0%	

## ④外出頻度

「生活に必要な外出」では、喜界町は「ほぼ毎日」が32.8%と多い。南大隅町は逆に21.6%で4市町の中でも最も低かった。「余暇などのための外出」も同様の傾向である。

表10 地域と外出頻度

			生活に必要な外出					合計
			ほぼ毎日	週3～4日 程度	週1～2日 程度	1ヶ月1～ 3回	ほとんどし ない	
地域	鹿児島市	度数	132	127	89	32	12	392
		%	33.7%	32.4%	22.7%	8.2%	3.1%	100.0%
	南さつま市	度数	57	53	45	29	8	192
		%	29.7%	27.6%	23.4%	15.1%	4.2%	100.0%
	南大隅町	度数	42	42	55	47	8	194
		%	21.6%	21.6%	28.4%	24.2%	4.1%	100.0%
	喜界町	度数	62	42	47	29	9	189
		%	32.8%	22.2%	24.9%	15.3%	4.8%	100.0%
合計	度数	293	264	236	137	37	967	
	%	30.3%	27.3%	24.4%	14.2%	3.8%	100.0%	

表11 地域と余暇などのための外出

			余暇などのための外出					合計
			ほぼ毎日	週3～4日 程度	週1～2日 程度	1ヶ月1～ 3回	ほとんどし ない	
地域	鹿児島市	度数	50	58	84	79	88	359
		%	13.9%	16.2%	23.4%	22.0%	24.5%	100.0%
	南さつま市	度数	28	31	27	20	54	160
		%	17.5%	19.4%	16.9%	12.5%	33.8%	100.0%
	南大隅町	度数	18	19	28	35	64	164
		%	11.0%	11.6%	17.1%	21.3%	39.0%	100.0%
	喜界町	度数	43	32	19	20	48	162
		%	26.5%	19.8%	11.7%	12.3%	29.6%	100.0%
合計	度数	139	140	158	154	254	845	
	%	16.4%	16.6%	18.7%	18.2%	30.1%	100.0%	



## ⑤孤立感や孤独死不安そして孤独感

まず「孤独死を身近に感じる」について、そう思う者は南大隅町で66.1%，ついで鹿児島市、南さつま市の53.7%，喜界町55.4%であった。「頼る人がなく一人きりである」は、差はあまりないが、南さつま市と喜界町が10.1%，南大隅町が9.1%，鹿児島市8.5%の順である。都市部の鹿児島市が思ったほど高くない。

表12 地域と孤独死（孤立死）と頼れる人がいない

			孤独死（孤立死）を身近に感じる	頼れる人がなく一人きりである
地域	鹿児島市	度数 %	197 53.7%	34 8.5%
	南さつま市	度数 %	94 53.7%	20 10.1%
	南大隅町	度数 %	117 66.1%	18 9.0%
	喜界町	度数 %	85 49.7%	20 10.1%
合計		度数 %	493 55.4%	92 9.2%

「孤独に思うこと」と比較すると、「よく思う」は喜界町19.0%，南大隅町16.7%，鹿児島市13.3%，南さつま市11.7%の順である。逆に「あまり思わない」に注目すると、南大隅町が30.6%で最も少なく、喜界町は40.2%で鹿児島市について多い。

表13 地域と孤独に思うこと

			孤独に思うこと			合計
			よく思う	たまに思うことがある	あまり思わない	
地域	鹿児島市	度数 地域の %	52 13.3%	178 45.6%	160 41.0%	390 100.0%
	南さつま市	度数 地域の %	23 11.7%	105 53.3%	69 35.0%	197 100.0%
	南大隅町	度数 地域の %	31 16.7%	98 52.7%	57 30.6%	186 100.0%
	喜界町	度数 地域の %	36 19.0%	77 40.7%	76 40.2%	189 100.0%
合計		度数 地域の %	142 14.8%	458 47.6%	362 37.6%	962 100.0%

## (3) 栄養得点

さまざまな食品（12品目）の摂取状況を得点化して栄養得点を出したが、喜界町は6.7であるのに対して、南大隅町が平均5.8点と最も低かった（鹿児島市7.0，南さつま市6.7）。

## (4) 生鮮食料品のあるお店と食の買い物の困り事

栄養状態と関連のある項目と思われるが、「500メートル以内に生鮮食料品を買えるお店がありますか」という質問では「ない」が鹿児島市29.5%，南さつま市55.6%，南大隅町63.6%，喜界町48.7%となっており、南大隅町が最も低い。食料品の購入が身近でできないことが健康被害を招来するという研究もあり（田中2007），気になるところである。

南大隅町の栄養得点の低さは、こうした食材の購入における利便性とも関係しているのかもしれない。「食の買い物についての困り事」でも南大隅町は、喜界町より、多くの項目で割合が高い。

表14 食の買い物についての困り事と地域

			地域				合計
			鹿児島市	南さつま市	南大隅町	喜界町	
食の買い物 についての 困り事	場所が遠い	度数 %	78 20.6%	58 31.0%	69 35.4%	56 29.9%	261 27.6%
	交通手段がない	度数 %	27 7.1%	26 13.9%	32 16.4%	4 2.1%	89 9.4%
	生鮮食料品が買えない	度数 %	16 4.2%	17 9.1%	24 12.3%	14 7.5%	71 7.5%
	値段が高い	度数 %	27 7.1%	9 4.8%	14 7.2%	26 13.9%	76 8.0%
	一度にたくさん買えない	度数 %	50 13.2%	18 9.6%	23 11.8%	19 10.2%	110 11.6%
	好みのモノがない	度数 %	13 3.4%	9 4.8%	14 7.2%	6 3.2%	42 4.4%
	その他	度数 %	20 5.3%	7 3.7%	6 3.1%	3 1.6%	36 3.8%
	特にない	度数 %	231 61.1%	103 55.1%	93 47.7%	105 56.1%	532 56.2%
	合計	度数 %	378 100.0%	187 100.0%	195 100.0%	187 100.0%	947 100.0%

## (5) 買い物の交通手段

買い物の交通手段についての結果をみてる。特徴的なところとして、自分で運転する自家用車、別居家族・友人が運転する自動車、自家用バイクなどは南大隅町に多く、バスや自転車は喜界町が多い点である。ことにバスに関しては、ほとんど鹿児島市と変わらない。また徒歩は南大隅町の方が多い。

表15 地域と買い物の交通手段

			地域				合計
			鹿児島市	南さつま市	南大隅町	喜界町	
買い物の交通手段	自分で運転する自家用車	度数 %	89 22.5%	68 34.3%	56 28.6%	45 22.8%	258 26.1%
	自分では買い物はしない	度数 %	24 6.1%	17 8.6%	14 7.1%	12 6.1%	67 6.8%
	別居家族や友人が運転する自動車	度数 %	59 14.9%	48 24.2%	50 25.5%	31 15.7%	188 19.0%
	自家用バイク	度数 %	15 3.8%	8 4.0%	22 11.2%	13 6.6%	58 5.9%
	自転車	度数 %	30 7.6%	18 9.1%	8 4.1%	33 16.8%	89 9.0%
	徒歩	度数 %	218 55.1%	59 29.8%	62 31.6%	45 22.8%	384 38.9%
	バス	度数 %	115 29.0%	25 12.6%	20 10.2%	57 28.9%	217 22.0%
	電車	度数 %	19 4.8%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	20 2.0%
	タクシー	度数 %	51 12.9%	22 11.1%	13 6.6%	18 9.1%	104 10.5%
	その他	度数 %	15 3.8%	13 6.6%	14 7.1%	6 3.0%	48 4.9%
	合計	度数 %	396 100.0%	198 100.0%	196 100.0%	197 100.0%	987 100.0%

## (6) 交流の範囲

比較的、地方の相互扶助の伝統を残す地域は、近隣の人達との人間関係が濃密であるといわれる。喜界町などは確かに、交流の範囲が「近所・集落内の人との交流が主である」という人が74.1%である。これと際立っているのが、南大隅町で47.1%であり、4自治体中最も低い。「他の自治体との交流もある」と答えた人が最も多い。都市部の住民が交流の範囲が比較的広いことは予想できるが、南大隅町の調査結果は、どのように解釈できるか。

表16 地域と交流の範囲

			交流の範囲				合計
			近所・集落内 の人との交流 が主である	集落を含め自 治体内の人と の交流が主で ある	自治体内の人の 交流もあるが、 他の自治体の人 との交流もある	他の自治体の 人との交流の 方が主である	
地域	鹿児島市	度数 %	226 59.6%	43 11.3%	96 25.3%	14 3.7%	379 100.0%
	南さつま市	度数 %	113 59.2%	15 7.9%	58 30.4%	5 2.6%	191 100.0%
	南大隅町	度数 %	89 47.1%	31 16.4%	64 33.9%	5 2.6%	189 100.0%
	喜界町	度数 %	140 74.1%	28 14.8%	20 10.6%	1 0.5%	189 100.0%
合計		度数 %	568 59.9%	117 12.3%	238 25.1%	25 2.6%	948 100.0%

これまでの調査結果をまとめると、南大隅町と喜界町とは過疎地域であり、多くの住民が当該自治体外に移り住む傾向のある点、近所の付き合いという点では、昔ながらの共同体的側面を残していることがうかがわれる点など共通点も多いが、異なる点も目立つ。例えば、別居家族との連絡などは離島である喜界町の方がより連絡をとっているようである。また外出の点でも喜界町に外出頻度が高く、南大隅町は低かった。孤独死不安も南大隅町に高かった。交流の範囲では、喜界町が「近所・集落内の人との交流が主である」が74.1%であるのに対して、南大隅町で47.1%と4自治体中最も低い。「他の自治体との交流もある」と答えた人が最も多い。他の項目をみても、栄養得点が南大隅町は低かった。食についての困り事でも、ほとんどの項目で南大隅町は喜界町より高く、特に「交通手段がない」では喜界町2.1%に対して、南大隅町16.4%と大きな差があった。

## 4. 南大隅町と喜界町の地域評価調査

ひとり暮らし高齢者調査の実施後、両町民の一部に対して地域評価調査を行った。この調査は4自治体ひとり暮らし高齢者の補足調査として、南大隅町においては2012年9月11日に、4自治体ひとり暮らし高齢者調査の報告を兼ねた研修会の折に実施したもので、参加者は町内会役員と民生委員そして在宅福祉アドバイザーであった。300名程度の参加者があったが、207名から回答を得たものである。

喜界町においては、調査票を共通にして2013年2月6日、民生委員協議会定例会において、やはり4自治体ひとり暮らし高齢者調査の報告をさせていただき、その折りに37名に対して実施したものである。ここでは、そのうち地域評価に関わる調査結果を示す。

地域評価調査では、「子育てのしやすさ」等12項目を用意し、それらを1「よい」2「ややよい」3「どちらともいえない」4「やや悪い」5「悪い」の5件法で聞いている。

下記の表ではこれらを点数化し、平均点を示している。わかりやすく言えば3より低く1に近ければいい評価となり、3より高く、5に近いほど悪い評価となる。

結果をみると、ほとんどの項目は1～2の答えなので、全体的にはいい評価と言えるが、南大隅の評価の中で「医療機関」と「買い物のしやすさ」だけは3を超えている。また「道路や交通の便」と「防災対策」は2.9台で、3点に近い。

これらのうち、「子育てのしやすさ」「道路や交通の便」「公民館・集会場」「地域の安全・防犯」「買い物のしやすさ」「医療機関」「福祉サービスの利用」「近隣の助け合い」「地域全体の住み易さ」は、喜界町の方が、統計的に有意に評価が高かった。

筆者自身の報告の後に行った調査であるので、その影響、また調査対象の量的、質的属性に違いもあるが、両町には生活インフラの利便性の違いに大きな差があるように見える。

表17 地域評価調査の結果

	自治体	N	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
子育てのしやすさ	南大隅町	154	2.55	1.309	.105
	喜界町	31	2.06	1.063	.191
街灯の明るさ	南大隅町	166	2.37	1.203	.093
	喜界町	37	2.08	1.090	.179
ゴミの処理	南大隅町	164	2.05	1.038	.081
	喜界町	36	1.83	.878	.146
道路や交通の便	南大隅町	168	2.98	1.506	.116
	喜界町	37	1.95	.941	.155
公民館・集会所	南大隅町	164	1.89	.933	.073
	喜界町	37	1.51	.804	.132
地域の安全・防犯	南大隅町	163	2.12	.926	.072
	喜界町	37	1.68	.818	.135
買い物のしやすさ	南大隅町	165	3.04	1.361	.106
	喜界町	37	2.30	1.199	.197
医療機関	南大隅町	166	3.45	1.291	.100
	喜界町	37	2.54	1.238	.204
防災対策	南大隅町	164	2.93	1.083	.085
	喜界町	37	2.65	1.136	.187
福祉サービスの利用	南大隅町	157	2.50	.806	.064
	喜界町	37	2.19	.739	.122
近隣の助け合い	南大隅町	167	1.91	.727	.056
	喜界町	37	1.73	.769	.126
地域の全体的住み易さ	南大隅町	167	2.13	.958	.074
	喜界町	37	1.70	.702	.115

## 5. まとめにかえて—喜界町調査結果説明会での住民からの指摘

喜界町での調査報告の後の質疑の中で、喜界町としての特徴について、次のような点が指摘された。

○交通の便がよく、車で移動する人が多い。女性の方でも車の人も多い。

この点は調査結果を詳しく見ると、車での移動は南大隅町が多く、また女性で車の人が多いことも確かめられない。

○平坦なところが多いことから、電動カーや電動バイクの利用が多い

この指摘については、バイクは南大隅町が多いものの、自転車は喜界町が多く、平坦な道という点は、ある程度裏付けられる。

○町営バスがあり、敬老バスが利用できる。そのため1ヶ月100円で(73歳以上)で、利用できる

調査結果でも喜界町は、鹿児島市と殆ど同じくらいにバスの利用率が高く、その意味でバス路線と敬老バスが、高齢者の交通の利便性をあげている点は推測できる。

○その他

買い物等に関しては、これまで大型店の進出があまりなく、ある程度の規模のスーパー等がそのまま、それが買い物の利便性をあげているのかもしれない。

南大隅町の総合計画には、「平成18年11月7日を以て廃止された路線バスの代替として、地方公共交通特別対策事業を利用し廃止路線代替バスを運行しています。また、同事業の対象外となる地域は、中学校スクールバスの一般混乗と佐多地区においてはコミュニティバスを運行しています」(南大隅町2010:43)とあるが、移動手段として、必ずしも有効活用されているというわけではなさそうだ。

## (2) 交流の範囲の違い

交流の範囲の広さは何を物語っているのだろうか。南大隅町と喜界町の交流の範囲の違いは何を意味しているのだろうか。

通常、こうした交流の範囲の広さは、都市化の流れの中で進んでいくように思われるが、地域共同体的な要素を残すコミュニティにおいては、また特に高齢者の社会関係を考える上では、喜界町の交流の範囲が、集落内の人間関係を中心としていることはうなずけるところである。しかし、なぜ南大隅町は、鹿児島市以上に集落外の人間関係の割合が高いのであろうか。

確かに、子どもの多くが、他の自治体におり、子どもに会いに行くといった点のことか。しかし、この点は、喜界町でも共通しており、だからこそ集落内の人間関係を軸に考えるということになるのかもしれない。

これはあくまで仮説であるが、その後(平成25年6月)、南大隅町の集落での面談等を行った経験からいうと、南大隅町の高齢者には、若いときに一度地域を出て、他県で生活を行ってきた人たちが多い印象を持つ。その意味で、町外のあちらこちらに人間関係をもっており、そのことがこうした結果を導いた一つかもしれない。ただこの点はより詳しい裏付けが必要だろう。

## (3) 医療機関、買い物、交通の便

南大隅町の地域評価調査では、特に「医療機関」「買い物のしやすさ」「交通の便」の3つは、喜界町との差が大きいというだけでなく平均点でも3を超える、あるいは3に近い、低い評価であった。

孤独死不安は、医療機関の問題との関連を示唆するし、買い物のしやすさは、栄養得点との関連を示唆する。医療機関に係っている人の平均回数、鹿児島月3.02回に対して、南大隅町は、1.21回、喜界町1.49回であった。生活インフラのあり方をめぐって、南大隅町での政策をあらためて考えていかねばならないだろう。

## 参考文献

1. 高橋信行(2012)「ひとり暮らし高齢者の社会的孤立—地方都市、過疎地域、離島における実態—」地域総合研究 第40巻第1号 鹿児島国際大学附置地域総合研究所
2. 高橋信行(2013)「ひとり暮らし高齢者の社会的孤立—地方都市、過疎地域、離島における実態2—」地域総合研究 第40巻第2号 鹿児島国際大学附置地域総合研究所
3. 河合克義(2009)『大都市のひとり暮らし高齢者と社会的孤立』法律文化社
4. 河合克義「(2010) 高齢者の貧困と孤立—ひとり暮らし高齢者の貧困と社会的孤立—」 貧困研究 vol4 明石書店

5. 田中耕市・岩間信之・佐々木 緑（2007）『地方都市中心部における高齢者の孤立と住環境の悪化』第一住宅建設協会
6. 南大隅町（2010）「総合振興計画」